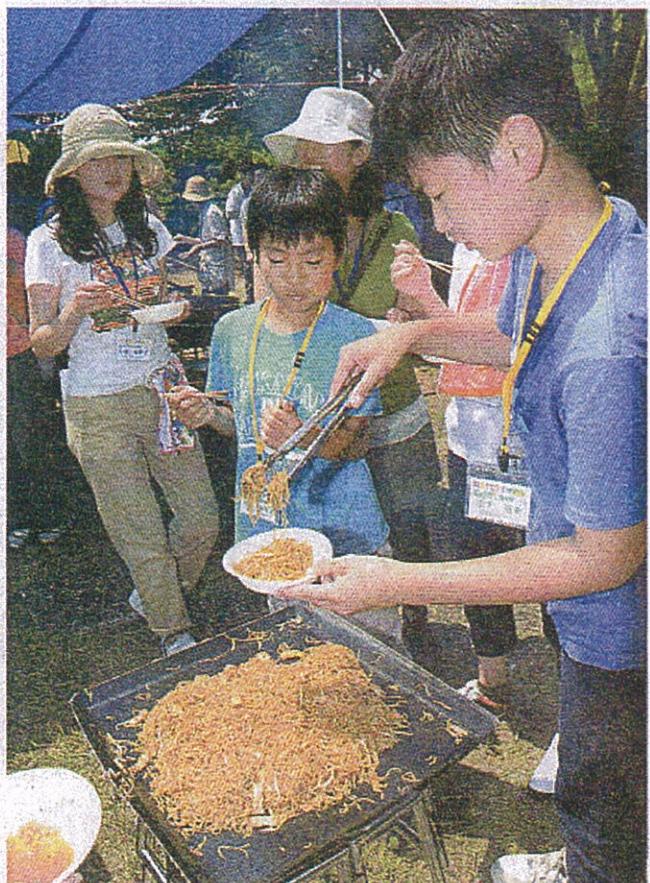




仲間と共に前向きに

にこにこスマイルキャンプ

闘病経験の子供たち語り合う



夏空の下で鉄板焼きを楽しむスマイルキャンプの参加者たち

小児がんを経験した子供たちが交流する「にこにこスマイルキャンプ㏌九州」が18日、八女市山内の県立ふれあいの家南筑後を会場に1泊2日の日程で始まった。闘病中や病を克服した小、中、高校生と社会人の23人が九州各地から参加し、病気を通しての経験や将来の夢など前向きに生きる思いを語り合った。

【松尾雅也】

福岡市南区の九州がんセンターの臨床心理士や看護師、小児がん経験者らでつくる実行委員会。小児がん経験者が共有する悩みや不安を気軽に打ち明けられる場を設けようと、2010年から毎年春と夏にキャンプを開いている。

初日は、支援スタッフとともにバーベキュー やキャンドルナイトなどを楽しんだ他、テーマ別に6グループに分かれ語り合った。

「進学・就職」がテーマのグループでは、「就職面接で病気だったことを話すべきかどうかを考えてしま

う」「長期入院の後、鹿児島市の小学5年生、白尾雄志朗君(11)は「親元を離れて家とは違う生活が体験ができる」と心配するが、自分でやってみたいことは何でも挑戦してみるべきだ」など、それが経験談を披露した。

毎回参加している福岡市の高校2年生、山下浩史さん(16)は「参加者は何も言わなくてお互いの気持ちは分かるのですぐに友達になれる」。初参加した

さんは治せる病気といふことを多くの人に理解してほしい」と話している。

きるのはうれしい」と笑顔を見せた。

実行委員長の白石恵子さん(35)は「小児が